

市政に対する

一般質問

竜巻発生当日の

市の対応は

飯塚議員

栃木・茨城県内で同時に発生した竜巻は日本の歴史上最大で、とりわけ本市においては、西田井・八条地内を中心に大きな被害を受けた。当時の状況を見ると、現場はマスコミの報道どおり、悲惨な状況であったことが理解できる。当日、市の対応はどのように図られたのか伺う。

**市長** 五月六日午後零時四十四分頃の竜巻発生後、午後一時二十七分に消防本部から安全安心課消防防災担当者へ連絡があり、午後一時四十五分に関係課職員が、また午後二時には部長全員が参集し、同時に災害対策本部を設置した。午後三時、西田井駅前公民館に西田井区役員十名、真岡市消防団員五十名、安全安心課職員二名による現地本部を設置し、山前農村環境改善センターに避難所を開設した。午後三時三十分、現地本部に

ついて被災者の安否確認及び避難所開設の案内を開始し、また同時に税務課及び収税課職員による被災家屋調査を開始するとともに、関係各課職員による所管施設等の被災状況調査を開始した。午後五時十五分、防災無線により災害発生及び避難所開設を案内した。午後七時には現地本部による被災状況の確認と市職員による被災状況の調査を終了し、防犯警戒のため地元消防団が巡回を開始した。午前零時三十分以降は、安全安心課職員二名が災害対策本部で、福祉課職員二名が避難所で情報収集と連絡業務に当たった。

竜巻被害を受けた

西田井小学校の復旧見通しは

飯塚議員

竜巻発生当日は日曜日であったため、西田井小学校の児童にはけが人は出なくて済んだ。もし平日であれば大変な事態とな

っており、胸をなでおろす気持ちでいっぱいである。

しかし、竜巻により校舎だけでなく、グラウンドや体育小屋、バツクネット、フェンス、樹木などに甚大な被害を受けた。今後の復旧、修繕の見通しについて伺う。

**市長** 西田井小学校災害復旧事業費については、五月七日付専決処分により補正予算に計上したところであり、総額で約五千三百万円を見込んでいます。災害の復旧については、授業の再開を最優先に対応し、教室等の清掃、片づけ、ガラスの入替えを行い、五月七日から二日間休校しただけで授業を再開することができた。

今後の復旧工事の見通しであるが、校庭のガラス片の除去のため



グラウンドの土の入れ替え工事が進む西田井小学校

の表土の入替えについては、七月末の復旧完了を目指して現在準備を進めており、また校庭の復旧に関連する防球ネット、校庭外周のネットフェンス、体育器具庫などの復旧には、八月末の完了を見込んでいる。その他校舎のガラスの入替えについては、一部を除き完了しており、最も被害のひどかった礼法室については、八月末の復旧を目指して現在、工事発注の準備を進めている。したがって、学校全体としては八月末には復旧工事が完了するものと考えている。

公立保育所・中学校等の窓ガラス飛散防止対策を

関亦議員

西田井小学校の竜巻被害を教訓に、公立保育所、小中学校において、飛散防止フィルムを貼るなど、窓ガラスの飛散防止対策をすべきと考えるがどうか。また、市役所庁舎、図書館、青年女性会館、二宮コミュニティセンターなど、多人数が集う公共施設における窓ガラス飛散防止対策についても伺いたい。

**市長** 西田井小学校の六つ教室と

職員室等の窓ガラス二百四枚、西田井保育所の窓ガラス百五十八枚に飛散防止用のフィルムを貼り対応する。その他の小中学校及び公立保育所については、方法、箇所数、費用対効果、国の補助事業の活用などを総合的に検討し、子供たちの安全、安心な生活を確保したいと考えている。

気象庁は、屋内で竜巻から身を守る方法として、一階の窓の少ない部屋に移動する、窓やカーテンを閉めて窓から離れるなどを示している。多人数が集う公共施設の窓ガラス飛散防止対策としては、これらの方法で減災効果を上げることができると、各施設において、避難に適したスペースが確保できるかどうかを調査し、確保できる場合は、そこを避難場所に指定する。できない場合には、窓ガラスの飛散防止策について検討していきたい。

真岡市では、一九七六年九月、一九九二年九月にも竜巻被害があった。過去には、九月ということであったが、今回は五月ということであり、日本の気象条件がいろいろ変わっているの、竜巻注意報を市民の皆さんにも日ごろ、ご注意をいただきたいと考えている。